

## 第1章 環境研究センターの概要

### 1・1 沿革

複雑，多様化する環境問題に的確に対応するため，環境研究所，水質保全研究所，廃棄物情報技術センターの3機関を統合し，平成13年4月1日環境研究センターとして新たにスタートした。

年月	環境研究所（現大気部）	水質保全研究所 （現水質・地質部）	廃棄物情報技術センター （現廃棄物化学物質部）
昭和43年8月	公害研究所発足（大気を所掌する研究室設置）		
昭和45年7月	地盤沈下研究室設置		
昭和47年4月		水質保全研究所発足	
昭和48年4月	大気第四研究室設置		
昭和49年11月	地盤沈下研究室が船橋分庁舎から千葉市稲毛海岸の庁舎に移転		
昭和50年6月		新庁舎（稲毛海岸）に移転	
昭和51年4月	大気常時監視業務を大気保全課に移管	産業廃棄物研究室設置	
昭和54年4月	騒音振動研究室設置		
昭和63年4月	地盤沈下研究室が水質保全研究所に組織替え	地盤環境研究室が公害研究所から所属替え（同時に名称変更）	
平成2年3月	環境放射能測定棟を設置		
平成3年4月		地質環境インフォメーションバンク整備	
平成4年4月	環境研究所に名称変更	地盤環境研究室を分割し地質環境第一及び第二研究室を設置	
平成6年4月	自動車排気ガス研究室を設置	産業廃棄物研究室を廃止し，印旛沼・手賀沼浄化研究室設置	廃棄物情報技術センター発足
平成10年6月			廃棄物情報バンク整備
平成12年4月			ダイオキシン分析設備整備
平成13年4月	3機関を統合し，環境研究センター発足		

## 1・2 施設の概要

(1) 市原地区 総務課，企画情報室，大気部及び廃棄物化学物質部

所在地 市原市岩崎西

敷地面積 13,295.18 m<sup>2</sup>

建 物

本 館	鉄筋コンクリート造2階建	延 1,372.50 m <sup>2</sup>
新 館	鉄筋コンクリート造3階建	延 1,607.49 m <sup>2</sup>
騒音振動研究棟	鉄筋コンクリート造2階建	延 259.86 m <sup>2</sup>
大気振動実験棟	鉄筋コンクリート造平屋建	延 236.00 m <sup>2</sup>
環境放射能測定棟	鉄筋コンクリート造平屋建	延 100.75 m <sup>2</sup>
土木実験棟	鉄骨造平屋建	延 167.20 m <sup>2</sup>
附属建物 (試験炉建屋，プロパン庫，車庫等)		延 438.11 m <sup>2</sup>

(2) 稲毛地区 水質・地質部

所在地 千葉市美浜区稲毛海岸

敷地面積 6,614 m<sup>2</sup>

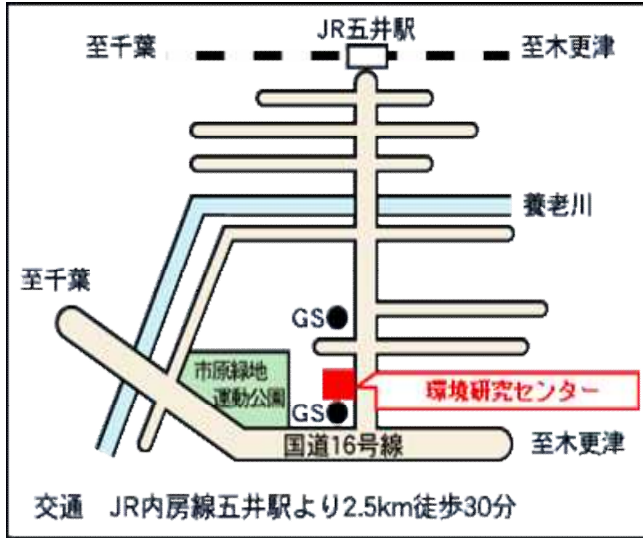
建 物

水質研究棟	鉄筋コンクリート造3階建	延 1,536.16 m <sup>2</sup>
地質研究棟	鉄筋コンクリート造2階建	延 756.00 m <sup>2</sup>
地質環境情報資料棟	鉄筋コンクリート造2階建	延 222.00 m <sup>2</sup>
附属建物 (倉庫，車庫等)		延 351.65 m <sup>2</sup>

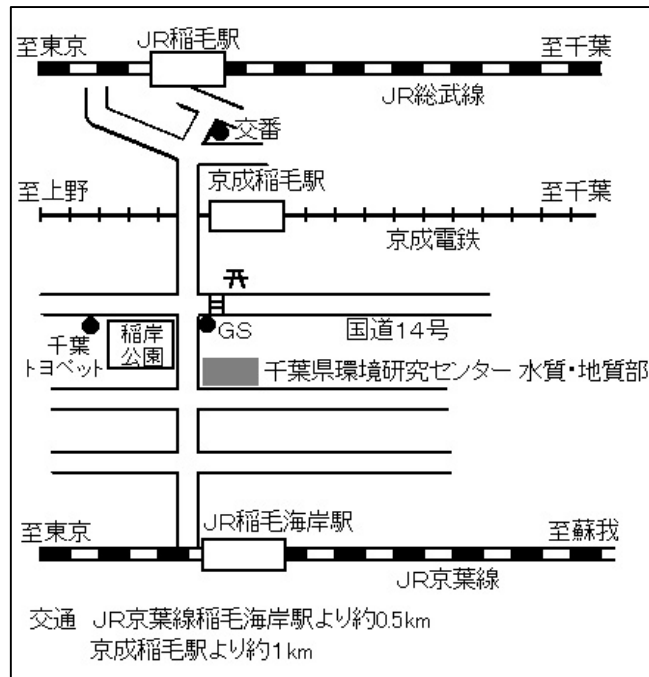
## 1・3 位置図



(1) 市原地区 (大気部, 廃棄物化学物質部)



(2) 稲毛地区 (水質・地質部)



1・4 組織と業務



1・5 主要機器

部名	機器名	数量
大気部	ガスクロマトグラフ質量分析計	1
	エネルギー分散型蛍光X線分析装置	1
	C H N 元素分析計	1
	原子吸光光度計	1
	分析電子顕微鏡	1
	燃料油分硫黄分分析計	1
	発生源用ばいじん自動等速吸引装置	1
	非接触型速度計測 システム	1
	交通流シミュレーター	1
	大気環境関連データ地図解析システム	1
	模型実験用測定装置 (リアルタイムオクターブ周波数分析器等)	1
	F F T アナライザー	2
	Ge 半導体核種分析装置	1
水質地質部	原子吸光分析装置	3
	ICP 発光分光分析装置	1
	高速液体クロマトグラフ	2
	イオンクロマトグラフ	2
	G C - M S	3
	微量全窒素分析装置	1
	高速チャート読取システム	1
	現場用ガスクロマト装置	1
	増速 VP 振動三軸試験装置	1
	現場用有機溶剤重金属測定装置	1
	強震計・地中地震計	5
廃棄物化学物質部	ICP 発光分光分析装置	1
	GC/MS(四重極型)	1
	GC/MS(磁場型)	2
	イオンクロマトグラフ	1
	液体クロマトグラフ	1
	原子吸光分析装置	1
	赤外分光光度計	1
	分光光度計	1
	蛍光 X 線分析装置	1
	X 線回折装置	1
	走査型電子顕微鏡	1